JTUC

連合高知

<発行所>連 合 高 知
日本労働組合総連合会高知県連合会
〒780-0870 高知市本町４丁目1-32
こうち勤労センター内
TEL(088)824-5111
FAX(088)824-3002
<発行責任者>折 田 晃 一
No.112 2017年９月14日

「恒久平和の実現に向けて」

～平和行動 in 沖縄・広島・長崎～

連合が目指す「安心して暮らし、働き、労働運動に携わることのできる社会」の実現には、「社会が平和で安定していること」が大前提です。そのため連合は平和運動に積極的に取り組み、地球規模での‘絆づくり’を進めることで、平和で安定した社会・暮らしの実現をめざしています。

〈連合高知女性委員会参加者からの感想を特集でお届けします〉

連合 2017 平和行動 in 沖縄　6月23日～25日

太平洋戦争の末期、沖縄に上陸した米軍との激しい地上戦で20数万人の命が奪われました。このような悲劇を繰り返さないため６月23日沖縄「慰霊の日」に戦没者の霊を慰め平和の尊さを心に刻み、あわせて、在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の見直しに向けた運動に取り組んでいます。

○連合高知女性委員会：横山美香　幹事
（自治労・競輪競馬労組）

６月23日：連合高知から９名の参加者は、浦添市てだこホールにて全国から集まった参加者たちと「平和オキナワ集会」に参加し語り部から平和の尊さを学び、次の開催地である広島へ平和のバトンが渡され、平和への思いを再確認しました。

６月24日：「南部戦跡コース」旧海軍司令部壕、嘉数高台（普天間）、ひめゆりの塔、平和祈念公園のピースフィールドワークに参加し戦争による惨禍の状況を自分の目で見て歩き、戦争の悲惨さを思い知り、「次世代への継承」を強く心に刻みました。平和への思いを強く心に抱き再確認し、これからも取り組んでいきます。

○連合高知女性委員会：中屋直子　幹事
（電力総連）

ピースフィールドワークの糸数アブチラガマでは、防空壕の中へ実際に入り、ピースガイドからどういった場所であったか細かい説明がありました。軍人が奥、住民が手前と言う配置であったことや、疫病にかかり、死を待つだけの人が居た場所、今も残る爆撃の痕跡、少ない器具で麻酔も出来ず手術し、ひめゆりの学生が切断した部位を防空壕の外に持ち出していたことなど実際の現地で聞く言葉にはとても重みを感じました。また、平和記念公園では沖縄戦の映像や、現地の生の声が展示されており、二度とこのような悲劇を起こしてはならないと改めて感じさせられました。

現在の沖縄の暮らしについて、本土で不発弾が見つかると全国ニュースとなるが、沖縄では、１週間に１度は不発弾が撤去されており、ニュースにならず当たり前の光景であること。米軍基地に始まり、スーパーで売られている牛乳の容量や、距離の単位など、アメリカ色が大変強く、沖縄戦が及ぼした影響がどれほど大きいかと言う事を実感しました。

連合2017平和行動in広島　8月5日～6日

太平洋戦争終結直前の1945年８月６日、米軍による原子爆弾が広島に投下され14万人の尊い命が奪われました。人類史上初めて原爆が投下された広島の地で悲劇が二度と繰り返されないよう訴えます。

○連合高知女性委員会：松本延香　サブ幹事
（私鉄総連）

実際に広島に降り立ち、原爆に関する事柄やモニュメント等を自分の目で見る初めての体験でした。テレビや写真で見るのとは異なり、自分自身の目で見るということが、こんなにもずっしりとした感情になるとは予想以上でした。原爆ドームを初めて自分の目で見た瞬間の気持ちを、ピースウォークの間中持ち続けることとなりました。

ピースウォーク後、上野学園ホールでの「連合2017平和ヒロシマ集会」に参加し、折鶴の献納を行い、被爆者の廣中正樹さんの体験証言を聞かせていただきました。実際に被爆された方の証言を間近で聞かせて頂く事は本当に貴重なことです。

8月6日、広島平和記念公園での慰霊式・平和祈念式にも参加し、14万人余りの尊い命が一瞬にして奪われたあの日から72年を迎えますが、いまだに放射能障害に苦しむ方がいらっしゃり、72年前の記憶や思いが風化することなく伝えられ、他の誰もが生涯経験する事のない、忘れる事が出来ない経験を、被爆された方が若い世代に伝えられる事の偉大さを感じました。もし72年前のこの原爆が今の世界だったら、自分自身が被爆したらと想像すると、その恐怖は計り知れず、原爆は決して許される事の出来ないものだと切に感じました。広島に原爆が投下されてから、72年も経つにも拘らず世界から核兵器が根絶されておらず、この現代でもまた自分自身も核兵器の恐怖と、隣り合わせである事も、本当に恐ろしいことであると再認識しました。

単純に原爆は「怖い・恐ろしい・いけない」という感情から、実際に被爆された方への思いや、哀悼は更に深いものとなり、平和に対する切なる思いや、原爆・核の根絶への気持ちが高まりました。これから更に、平和への取り組みや学習を深めていく気持ちを持ちます。

○連合高知女性委員会：池ゆかり　サブ幹事（私鉄総連）

今回初めて参加し、改めて戦争の恐ろしさを実感しました。また広島の方々が戦争について学び、身近に感じ平和を願っているかを被爆者のかたの体験談や高校生平和大使の方々の活動報告やメッセージを聞き痛感しました。また、大人だけではなく小学生までもが次世代へ繋げていかねばならない意識を持っていることに驚きました。私は、恥ずかしながら今まで学校の授業の一環でしか学んだことがなかったけれど、いろいろな説明を受け多くのことを知ることができました。そして、なかには耳を覆いたくなるような話もありましたが貴重な体験させていただきました。

連合2017平和行動in長崎　8月8日～10日

広島に続き1945年８月９日、長崎にも原爆が投下され、７万4000人が息絶え、７万5000人余が傷つきました。長崎の地から平和への祈りを込め、二度と核兵器が使われないよう強く訴えていかなければなりません。

○連合高知女性委員会：中山和恵　幹事
（私鉄総連）

戦争を二度と繰り返してはならないという平和の誓いのもと「これからの平和運動と次世代への継承」をテーマにした取り組みで長崎平和行動に初めて参加しました。学校での授業や修学旅行で学んだこととは異なり、大人になって現地に赴き参加することでしか得られない気づきがありました。大人だけでなく、小・中・高校生までが積極的に参加している様子に被爆国としてあるべき姿を見た気がします。

核の無い、戦争の無い恒久平和な世界を目指して、次世代への継承の大切さを痛感しました。